

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 紀之川 中学校
校長氏名	中村 清司
作成日	令和 3 年 2 月 5 日

1 教育目標

学校教育目標 あなたがいてよかったと言われる人になろう めざす生徒像 自ら求める生徒(主体性を育む) 自ら省みる生徒(連帯性を育む) 自ら創る生徒(創造性を育む) の育成をめざす

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○授業がよくわかる 80% ○授業改善(目標・振り返り) 95%	○学校が楽しい 95% ○いじめを許さない95%	○朝食を毎日食べる 95%	○連携回数 3回以上
重点目標 【P】	◎生徒指導の充実 ◎基礎・基本の確かな定着 ◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ◎家庭学習の定着 ◎読書活動の推進	◎道徳教育・人権教育の推進 ◎いじめの未然防止・早期発見 ◎規範意識の確立・仲間作り	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ◎危機回避能力の育成	◎家庭・地域との連携充実 ◎中学校区における幼保小との接続連携に取り組む
取組の状況 【D】	教科指導や見回り等を通じ、学習規律を何とか保っている。学習意欲を高める授業の実践と基礎基本の定着をはかるため、宿題や課題を作成し、点検するなど地道な取組を進めている。家庭学習・読書の習慣化を図るよう取組んでいる。	「特別の教科 道徳」の授業においては、年間計画を通じて、指導と評価を繰り返しながら、指導方法の工夫改善に取り組んでいる。授業や学校行事、部活動等を通じ、集団づくりの中で、生徒個々の心の育成に努めている。各学期において、教育相談を実施し、生徒の悩みを聞く機会を確保する。	コロナ禍の中、4、5月は自宅待機のため、外出を控えるように指導した。体力の衰えは心配したが、6月の生徒の状況を見れば、大きな変化はなかった。1学期中の検温や手洗い指導等を徹底して取り組んだ。保健だよりを通じ、「新型コロナ対策事項」等を周知するとともに、その時期に見合う課題を毎月お知らせしている。	コロナ禍の中、四箇郷・中之島両地区の夏まつり、その他すべての地域行事が中止となった。なかなか連携を深めるに至らなかった。途中からであったが、図書ボランティアの方々の協力で、図書室の整備が進み、生徒の利用も向上した。また、小学校との交流自体が困難であった。
取組の成果と課題 【C】	学校全体としての学習規律は何とか保たれているものの、生徒個々の学力向上ということに関してはなかなかつなげていない。「主体的・対話的で深い学び」のある授業の創造は少しずつではあるが、取組めるようになってきつつある。	「特別の教科 道徳」について、年間指導計画を実践して、計画的に取組んでいるか確認を行っている。朝の挨拶運動を通じて、朝の挨拶等が生徒の間に定着してきている。アンケートに基づき、教育相談を実施できている。	登校する生徒の健康調査を徹底して行った。生徒の様子に変化が生じた場合、家庭と連絡を取って、下校させる等の対応を行った。生徒の遅刻数が減少しているように思われる。また、朝食を食べずに登校するという生徒例年多く、この数字を少なくしていくよう家庭への啓発活動を継続していかなくてはいけないと考えている。	図書ボランティアの方々の尽力により図書室の整備が進み、利用者が増加し、活性化が進んでいる。今後、継続してボランティアの方に来校いただけるかが課題である。コロナ禍で無観客での体育大会や文化祭となり、残念であった。年2回行われる「若宮ガーデン」の花植えの取組も、地域と学校をつなぐ行事であるが、今年は管理職のみの参加であった。
改善方法 【A】	「主体的・対話的で深い学び」のある授業をめざして、学び合いの授業づくりに取組んでいく。授業の中での振り返りや補習についての取り組みを強め、今以上に基礎基本の定着に努める。朝の読書活動や朝学の充実を図っていく。	「特別の教科 道徳」が、授業時間の確保とともに、しっかりとした指導計画に基づいて授業を進めるとともに、学年等で常に評価が適切か検討して改善を行った。全ての学期の中でアンケートを実施し、教育相談を通じて生徒の心の悩みを共有できるように努める。	体力の向上に向けて、例年実施される新体力テストで、生徒の体力実態を把握し、その変化に対応して体力の向上に努めなければならない。部活動の振興を通じて生徒の基礎体力の向上に努めていく。保健だより等を通じ、「コロナ感染対策」や「早寝早起き朝ごはん」を柱とする基本的生活習慣の確立に努める。	今年度、難しかったホームページの更新や学年だより等の配布を充実させる。また、取組を通じて、学校開放期間や学校行事等への地域の方々の参加を促す。図書ボランティアの参加の呼びかけを継続していく。教科指導などを通じて、小中が連携できるような機会をつくるように努める。

3 その他の課題

生徒にとってわかる授業、学びが成立する授業を粘り強く実践していくことが、学習規律を生み、生徒の成長を支える礎と考える。次年度はGIGAスクール構想への対応を含め、今まで以上に、授業について、創意工夫を続けていくことが今後の大きな課題といえる。
